

THE 62nd ANNIVERSARY 泗水杯争奪戦

中部連係で地元V走へ

三年連続S班を確保している浅井。今シリーズの主役だ。四日市記念参戦は08年以来、3回目となる。過去二回は準決勝進出が最高。しかし過去二回と違い、今の浅井は競輪界最強クラス



浅井 康太
三重・90期

にいる。地元ファンの前で強い『浅井康太』を見せ付けるはずだ。中部連係で地元V走。加えて前田拓也が持つバンクレコード10・6秒を塗り替えることにも期待したい。



浅井康が地元記念初制覇へ

四日市記念競輪は2月15日に開幕。GI全日本選抜直後の開催となるが、この後には前半戦の大一番、日本選手権が控えていてトップレーサーは気が抜けない時期。一流レーサーによる力と技の激突に注目が集まる。地元優勝の期待



藤田 竜矢
埼玉・88期



矢野 昌彦
栃木・91期



飯野 祐太
福島・90期



郡司 浩平
神奈川・99期



原田 研太郎
徳島・98期



坂口 晃輔
三重・95期

を背負って登場するのは浅井康太。今年もS級S班として競輪界のトップに君臨。これまでに数々の栄冠を手にかけているが、いまだに達成していないのがホームバンクの記念制覇。機は完全に熟しているだけに今年こそは決めてくれるか。浅井の回りを固める中部軍団は他地区を圧倒する布陣。過去に四日市記念連覇がある柴崎淳、追込みに転進して更なる上を目指す柴崎俊光が兄弟参戦。自在型として上昇中の坂口晃輔を含めて四日市をホームとするトップ選手が勢ぞろい。昨年GPを制した金子貴志は浅井と共にS班の看板を背負って登場する。ホームの浅井を立てた作戦が考えられるものの、自在性が増した金子の立ち回りは当然優勝候補の一角。初優勝を達成した愛敬博之にも注目したい。この強力中部勢に力をつつ向勝負できるのは根田空史。昨年は長期の幹旋保留があつたものの、パワフルな機動力は更にレベルアップ。復帰後は他を圧倒する走りを見せている。今年タイトル制覇も狙えるような勢い。同県のベテラン鈴木誠

GPLレーサーの実力発揮



金子 貴志
愛知・75期

弟子の深谷知広の活躍でGPのタイトルを手にした2013年。今、もつとも旬な選手だ。金子はデビュー以来、四日市参戦は多いが、四日市記念になると10年振り2回目の参戦。これ

まで記念レースを制したところは豊橋2回、一宮、青森が一回ずつの計4回ある。今シリーズは浅井康太、柴崎兄弟の地元選手と上手く連係しながら結果を残しそうだ。

を連れて豪快スパートを決めるか。南関東では郡司浩平のヤングパワーも見逃せない。藤田竜矢を筆頭に矢野昌彦、鈴木謙太郎と機動力がそろった関東ラインは結束できれば侮れない存在。復調してきた飯野祐太には一撃の魅力がある。

昨年後半は乱調気味だった原田研太郎だが、底力は誰もが認めるところ。同県の堤洋のサポートで大駆けを狙う。九州勢の鍵を握るのは松川高大。復活の走りを見せるか。田中誠は何でもできる自在性があり波乱の立役者に。